91145793-01

2017年3月(第1版)　　承認番号:22900BZX00029000

機械器具7　内臓機能代用器
高度管理医療機器　　胃十二指腸用ステント　　70494000

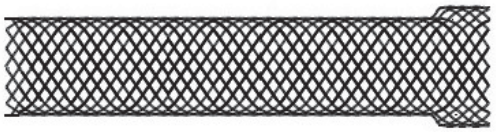
ウォールフレックス　十二指腸用ステント　ソフト

再使用禁止

【警告】
1.適用対象(患者)
⑴ ウォールフレックス　十二指腸用ステント　ソフト(以下、本品という)の留置に伴い、留置部位での穿孔の報告があるため、特に次の患者への適用の判断を慎重に行うこと。
　① ステント留置前に放射線療法又は化学療法を施行している患者
　② がんの浸潤が著しい患者

【禁忌・禁止】
1.適用対象(患者)
⑴ 腸管虚血を有する患者。[組織を損傷するおそれがある。]
⑵ 穿孔の疑い又は切迫穿孔を有する患者。[手技中に組織を損傷したり、出血したりするおそれがある。]
⑶ 腹腔内膿瘍/穿孔を有する患者。[手技中に組織を損傷したり、出血したりするおそれがある。]
2.使用方法
⑴ 再使用禁止
⑵ 再滅菌禁止

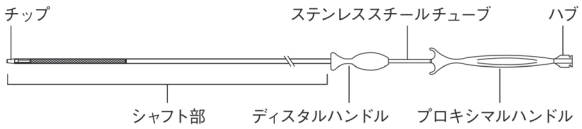
【形状・構造及び原理等】
本品は、ステント及びデリバリーシステムから構成されている。
1.ステント
ナイチノールワイヤをメッシュ状に編んだ自己拡張型ステントで、プロキシマル端はフレア形状となっている。
⑴ 外観図



ディスタル端　　プロキシマル端

⑵ 主な原材料
ニッケル・チタン合金
2.デリバリーシステム
シャフト部はコアキシアル(同軸状)構造になっており、外筒と内筒の間にステントのフレアがデリバリーシステムの手元側になるようステントが装着されている。また、先端部にはステントを展開する際の位置決めに使用するエックス線不透過性マーカを3個有する。デリバリーシステムは、ステントを再収納する際、ステントのプロキシマル端を保持するアンカーロックシステムである。
外筒のエックス線不透過性マーカ(外筒マーカ)は、展開前のステントのディスタル端の位置を示し、展開時に内筒のエックス線不透過性マーカ(限界マーカ)に重なったとき、ステントの展開の限界位置を示す。また、内筒の限界マーカより先端にあるエックス線不透過性マーカ(展開後近位マーカ)は、ステントが展開したときのステントのプロキシマル端のおおよその位置を示す。

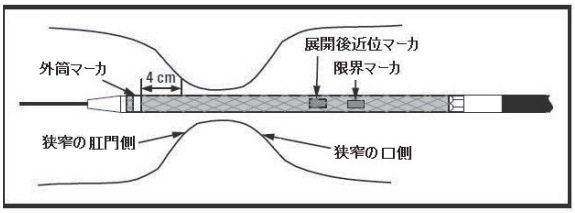
⑴ 外観図



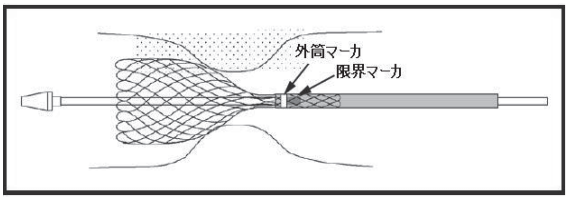
⑵ 主な原材料
ポリテトラフルオロエチレン、ポリエーテルブロックアミド、ポリアミド、ポリエーテルエーテルケトン、ポリウレタン、メチルメタクリレート・アクリロニトリル・ブタジエン・スチレン、プラチナ/イリジウム、シリコーン、ポリウレタンオリゴマー系接着剤

【使用目的又は効果】
本品は、経内視鏡的に挿入し、緩和的胃切除が困難、あるいは他の治療法では効果が期待できないと判断される患者における悪性腫瘍による胃十二指腸閉塞について、これを拡張し、開存性を維持するステントである。

【使用方法等】
⑴ 本品は、エックス線透視及び内視鏡下での直接観察を併用して留置する。
⑵ 内視鏡的手技の手順に従って準備を行い、患者に鎮静剤を投与する。
⑶ 内視鏡(チャンネル径3.2 mm以上)を狭窄部へ挿入する。直接観察及びエックス線透視下で、0.89 mm(0.035 inch)ガイドワイヤ(本品に含まれない)を内視鏡のチャンネル内へ送り込む。(カテーテルを介して造影剤を注入し、狭窄部の形状と寸法を明確にすることもできる。)ステントを留置する前に、狭窄部にガイドワイヤを通過させておくこと。
⑷ エックス線透視及び内視鏡下で、狭窄の位置及び両端を確認する。エックス線透視マーカ(皮膚に金属製マーカを貼る、あるいは造影剤を注入する、等)を使用して、狭窄の端部を確認することもできる。
⑸ 先端にエックス線不透過性マーカが付いているカテーテル又はガイドワイヤの抜去等を行い、狭窄部の長さを測定する。
⑹ 腫瘍の増殖及び留置後の継続的な展開によるステントのショートニングの可能性を考慮し、狭窄部を十分に覆うために必要なステントの長さと数を選択する。(注:完全に展開したときのステント長は、狭窄部の全長より少なくとも4 cm以上長くなければならない。)複数のステントが必要である場合は、まず狭窄の肛門側にステントを留置し、次に口側にステントを留置し、各々のステントが十分に重なり合うようにすること。湾曲の近くに閉塞部がある場合、ステントの2端が湾曲を越えて内腔に開口するように留置することを推奨する。
⑺ 本品を包装から慎重に取り出す。
⑻ 本品をガイドワイヤに沿って内視鏡チャンネル内へ送り込み、狭窄部まで進める。
⑼ 展開後近位マーカが狭窄の口側の最も外側にくるまで、ステントを進める。

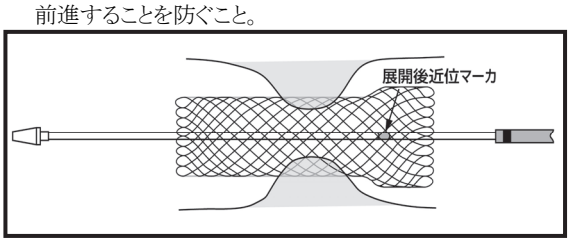


⑽ステントの展開を開始するため、プロキシマルハンドルを片方の手で固定し、もう片方の手でディスタルハンドルを掴む。ステンレススチールチューブに沿ってディスタルハンドルをプロキシマルハンドルに向けてゆっくりとスライドさせる。内視鏡介助者は同時に同じ速度で外筒を引き、不用意にステントが前進することを防ぐこと。



⑾必要に応じて、ステントの位置を確認し位置調整を行う。位置調整を行うには、まずプロキシマルハンドルを動かないよう確実に保持しながらディスタルハンドルをゆっくりと押し、ステントを完全に再収納する。ステントが完全に再収納したら、デリバリーシステムを前後に動かし、再度、展開することができる。位置調整は2回まで可能で、合計3回まで展開することができる。

⑿ステントの展開を完了させるには、プロキシマルハンドルを片方の手で固定し、もう片方の手でディスタルハンドルを掴む。ステントが完全に展開されるまで、ディスタルハンドルをステンレススチールチューブに沿ってプロキシマルハンドルに向けてゆっくりとスライドさせる。前述のとおり、内視鏡介助者は同時に同じ速度で外筒を引き、不用意にステントが前進することを防ぐこと。



⒀ステントが完全に展開し、正しく留置されたら、ディスタルハンドルを前方に押してデリバリーシステムを閉じ、抜去する。留置後の腫瘍の増殖及びステントのショートニングを考慮し、留置するステントは非狭窄部を若干覆う程度の長さが必要である。ステントが狭窄部を十分に覆っていない場合は、最初に留置したステントと十分に重なり合うようにして追加のステントを留置する必要がある。

⒁通常の留置後手技を行う。

＜使用方法等に関連する使用上の注意＞

⑴ 本品の使用前に、ステントのディスタル端を外筒が覆っていること、デリバリーシステムにキンクがないことを目視で確認すること。

⑵ ステントのショートニングの上限値を計算に入れ、展開後近位マーカは展開したステントのプロキシマル端から最も遠い位置にあることを確認する。ショートニングは解剖学的構造により異なるため、この展開後近位マーカは、ステントのプロキシマル端の最終位置の目安としてのみ使用すること。外筒マーカは、狭窄の肛門側から4 cm以上越えた位置でなければならない。外筒マーカが狭窄の肛門側を4 cm 以上越えていない場合は、狭窄部を十分に覆うよう、長めのステント又は2本目のステントが必要になることがある。

⑶ 外筒マーカが限界マーカを越えていなければ、ステントはいつでも再収納可能である。

⑷ ステントが部分的に展開した状態でプロキシマルハンドルを前後に動かしてはならない。必ずプロキシマルハンドルをしっかりと固定すること。プロキシマルハンドルを不用意に動かすと、ステントの誤留置や腸管壁損傷を起こすおそれがある。

⑸ ステントは容易に展開するはずである。過度の力を必要とする場合は、ステントを展開させてはならない。

⑹ 製品を破損することがあるので、屈曲部位でステントを再収納しようとしないこと。

⑺ ステントが完全に展開できない、又は完全に再収納できない場合は、内視鏡チャンネルを使用してデリバリーシステム全体を内視鏡内に引き入れ、ステントを再収納することができる。

⑻ 外筒マーカが限界マーカを越えた後は、ステントを位置調整することはできない。

⑼ キンクを起こす可能性があるため、2本のステントの端部を重ね合わせずに隣り合わせに留置しないこと。他社製のステントを組み合わせて使用してはならない。

⑽デリバリーシステムを抜去する際にデリバリーシステムが完全に閉じないと、デリバリーシステムのチップがステントに引っかかる可能性がある。

⑾留置後にステントを拡張してはならない。穿孔の原因となる。

【使用上の注意】

1. 使用注意（次の患者には慎重に適用すること）

⑴ 出血時間が長い又凝血障害のある患者。[本品のステント留置により穿孔が生じた場合、大量出血するおそれがある。]

⑵ ニッケル過敏症を持つ患者。[本品にはニッケルが含まれているためアレルギー反応を呈することがある。]

2 重要な基本的注意

⑴ 化学放射線治療又は放射線治療により、腫瘍が縮小して結果的にステントの移動が起こる場合がある。

⑵ ステントが完全に展開又は再収納できない状態で、デリバリーシステム全体を内視鏡内に引き入れると、内視鏡チャンネルが破損したり、ステントが不用意にデリバリーシステムから外れることがある。

⑶ エックス線透視を行うことを推奨する。エックス線透視を行わないと、ステントを誤留置する可能性がある。

⑷ ステントを完全に展開後、再配置することはできない。

⑸ 十二指腸の第3（水平部）及び第4セクション（上行部）への留置は使用経験が少ない。これらの部位への留置は、狭窄部の長さと屈曲度合い、及び狭窄の強さを考慮すること。

3 相互作用（他の医薬品・医療機器等との併用に関すること）

⑴ 併用注意（併用に注意すること）

磁気共鳴画像診断（MRI）

① 適合性

ベンチテストの結果から、本ステントは規定の条件下で留置直後からMRI適合性を示している。

- 静磁場強度 3テスラ以下
- 空間傾斜 0.072 テスラ（720 ガウス）/cm以下
- 最大全身平均比吸収率（SAR）3 W/kg（スキャン時間：15分）

② 高周波誘導加熱

ベンチテストの結果、最大全身比吸収率（SAR）3 W/kg、スキャン時間15分、3 テスラにおける本ステントの温度上昇は0.6 ℃以下であった（Excite、ソフトウェアバージョンG3.0-052B：General Electronic Medical Systems（米ウィスコンシン州ミルウォーキー）社製のアクティブ・シールド方式、水平磁場MRスキャナ使用）

③ イメージング・アーチファクト
撮像する領域がステントと全く同じか又は比較的近接する場合、磁気共鳴画像の質が低下することがある。このため、留置されたステントに対してMRI画像パラメータの最適化が必要となる場合がある。

4. 不具合・有害事象

⑴ 重大な不具合
① ステントの誤留置又は不十分な拡張
② ステントの移動

⑵ その他の不具合
① ステント内における腫瘍の内殖やステント端部周辺での腫瘍増殖によるステント閉塞

⑶ 重大な有害事象
① 死亡（通常の症状進行によるものを除く）
② 穿孔
③ 胆道性敗血症
④ 膵炎
⑤ 胆管炎
⑥ 感染症（局所感染、腹膜炎、敗血症等）

⑷ その他の有害事象
① 出血（胃腸出血）
② 疼痛（悪心、異物感）
③ 腸嵌頓
④ 発熱
⑤ 腹痛
⑥ 閉塞（胃流出路、胆管）
⑦ 吐血
⑧ 嘔吐
⑨ 胆汁うっ滞性黄疸
⑩ 膿瘍
⑪ 消化管逆流
⑫ びらん（潰瘍形成等）

【保管方法及び有効期間等】

1. 保管方法

高温、多湿、直射日光を避けて保管すること。

2. 有効期間

2年

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売業者：

ボストン・サイエンティフィック　ジャパン株式会社
電話番号：03-6853-1000

製造業者：

米国　ボストン・サイエンティフィック　コーポレーション
［Boston Scientific Corporation］